

## 平成 20 年度事業報告

平成 20 年度の基幹的な活動として、第 62 回大会を女子栄養大学にて開催し、日本栄養・食糧学会誌および JNSV 誌を定期的に刊行した。学会誌においては J-STAGE での電子論文公開が開始され、その情報発信機能が飛躍的に上昇することが期待される。また、各支部では支部大会、シンポジウム等活発な活動が展開され、東北、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄の各支部では学会活動強化事業としての活動、さらに、東北、近畿、九州・沖縄各支部で若手活動強化事業が実施された。

国際的活動としては、JNSV 誌の FANS 加盟団体への送付を開始した。韓国での IUNS ワークショップへの会員 2 名の派遣や IUFoST への役員推薦等、IUNS, IUFoST, FANS 等の国際組織との連携を進めた。特に韓国やタイ等のアジア諸国との交流促進がなされた。

学会事務局では、常勤の事務局長のもとに事務局体制の確立を図り、日常業務・労務の正常化・円滑化が達成された。一方、過去の資料の見直しと整理を徹底的に行い、事務所のスペースと安全が確保され、事務作業の効率化が成された。さらに、会員サービスの質と情報のセキュリティを向上させるため、懸案となっていたオンライン会員管理システムについて業者の選定と契約を終え、システム設計を進めてきた。平成 20 年 12 月から施行されている新公益法人制度に関して、移行期間の 5 年間で新しい法人としての認定または認可を受けなければならないため、検討のためのワーキンググループを立ち上げ、情報の収集や説明会の開催等を行い、議論を重ねてきた。

### 1) 会員の状況（平成 21 年 3 月 31 日現在）

名誉会員	29 名
終身会員	135 名
正会員	3,351 名
学生会員	767 名
団体会員	217 団体
賛助会員	55 団体 (68 口)

### 2) 平成 20 年度物故会員（敬称略）

名誉会員	鈴木継美、小石秀夫
終身会員	鈴江緑衣郎、産賀敏彦、和田せつ、前川一之
正会員	グエン・ヴァン・チュエン、竜口和恵、人見賢徳、新居昭、小林愛、船越崇行

### 3) 支部別状況

会員種別 支部名	名誉会員	終身会員	正会員	学生会員	団体会員	賛助会員 [口数]
北海道支部	0 (± 0)	3 (± 0)	115 (− 6)	36 (+ 7)	10 (+ 1)	1[ 1] (± 0)
東北支部	0 (± 0)	6 (− 1)	168 (−17)	31 (+ 2)	11 (− 1)	0[ 0] (± 0)
関東支部	15 (± 0)	52 (− 1)	1281 (−17)	285 (+49)	96 (− 2)	42[54] (− 1)
中部支部	5 (± 0)	12 (± 0)	407 (−10)	82 (+ 4)	26 (− 1)	2[ 2] (± 0)
近畿支部	3 (− 1)	42 (± 0)	691 (−11)	167 (+16)	33 (− 3)	8[ 8] (± 0)
中国・四国支部	1 (± 0)	12 (± 0)	342 (−10)	92 (− 6)	28 (+ 0)	2[ 3] (± 0)
九州・沖縄支部	4 (± 0)	8 (− 1)	338 (−12)	74 (+ 4)	13 (− 2)	0[ 0] (± 0)
海外	1 (± 0)	0 (± 0)	9 (+ 2)	0 (± 0)	0 (± 0)	0[ 0] (± 0)
合計	29 (− 1)	135 (− 3)	3351 (−81)	767 (+76)	217 (− 8)	55[68] (− 1)

( ) 内は平成 20 年 3 月 31 日会員に対する増減を示す。(平成 21 年 3 月 31 日現在)

#### 4) 学術集会・講演会などの開催

##### (1) 第62回日本栄養・食糧学会大会の開催(会頭 岡崎 光子 女子栄養大学教授)

平成20年5月2日(金)~4日(日) 女子栄養大学 坂戸キャンパス

特別講演 3題、シンポジウム 9テーマ、一般講演 628題

参加者数(登録者) 2,111名

##### (2) 支部活動

###### ①北海道支部

・第38回日本栄養・食糧学会北海道支部会(日本農芸化学会北海道支部と合同学術講演会として開催)

2008年11月8日(土)~9日(日) とかちプラザ

シンポジウム「機能性食品と健康科学」

第1部 帯広市市民大学講座

1. 低利用食品素材の畜産食品への応用 島田 謙一郎(帯広畜産大学)
2. 未利用資源から機能性食品の開発 岡田 博(コスモ食品)

第2部

3. ワカメ脂質を抱合したホタテ由来リン脂質マイクロカプセルの抗肥満効果  
岡田 朋子(北海道大学大学院)
4. 難消化性糖類による腸内細菌叢の制御を介したアレルギー疾患予防の試み  
園山 慶(北海道大学大学院)
5. 植物エキス発酵飲料中の新規フルクトピラノシド<sup>®</sup>型オリゴ糖類  
岡田 秀紀(大高酵素株式会社)

特別講演

牛乳中の感染防御タンパク質-ラクトペルオキシダーゼとラクトフェリン-

島崎 敬一(北海道大学大学院)

一般講演 14題(農化支部を含めた全体44題)

###### ②東北支部

・第42回 日本栄養・食糧学会東北支部大会

平成20年11月8日(土) 郡山女子大学 芸術館

公開市民フォーラム「健康な生活を送るために」(郡山女子大学共催)

1. エクササイズガイド2006-身体活動・運動による健康づくり  
田畑 泉(国立健康・栄養研究所)
2. 医師の立場から見た最近の疾病と食生活の傾向  
太田 節(太田西ノ内病院)
3. 動脈硬化症を予防する機能性食品成分の機能  
池田 郁男(東北大学大学院)

一般講演 12題

###### ③関東支部

・第82回日本栄養・食糧学会関東支部総会およびシンポジウム(グエン・ヴァン・チュエン先生追悼シンポジウム)

平成20年12月13日(土) 日本女子大学(目白キャンパス) 851教室

シンポジウム「食用色素と健康」

カロテノイドの生理機能と活性酸素 幹 渉((株)M&K・山形大学大学院)

アントシアニン色素の加工利用技術と機能性-赤紫色のサツマイモとジャガイモを中心に-

津久井亜紀夫(元東京家政学院短期大学)

茶ポリフェノール類の健康機能と応用例 原 征彦(茶研究・原事務所(株))

食品の色は食事療法の開発に貢献するか 丸山 千寿子(日本女子大学)

新しい機能性カロテノイドを探る、創る 新藤 一敏(日本女子大学)

・第83回日本栄養・食糧学会関東支部会シンポジウム

平成21年3月14日(土) 女子栄養大学 駒込校舎 小講堂

シンポジウム『栄養と遺伝子-骨粗鬆症を中心に』

カルシウム吸収と遺伝子 福島 亜紀子(女子栄養大学)

ビタミンDの機能と遺伝子 山内 淳(国立健康・栄養研究所)

骨粗鬆症の予防と治療におけるビタミンKの役割と遺伝子 細井 孝之(国立長寿医療センター)

骨粗鬆症のゲノム医学 井上 聡(東京大学・埼玉医科大学)

骨粗鬆症予防における、栄養素としてのビタミンの役割 田中 清(京都女子大学)

④中部支部

・第55回 日本栄養・食糧学会中部支部大会

平成20年7月5日(土) 愛知教育大学 第1共通棟

日本栄養・食糧学会 受賞講演会

平成20年度学会賞受賞

『食品成分相互作用による生体内抗酸化機能の増強効果』

山下 かなへ(元椋山女学園大学)

平成20年度奨励賞受賞

『持久運動能力の測定装置開発とその食品栄養学的制御』

石原 健吾 (椋山女学園大学)

シンポジウム「脳機能と栄養ー最近の研究からー」

ビタミンA情報伝達経路による学習・記憶能力制御

喜田 聡 (東京農業大学)

運動時エネルギー代謝の中枢性調節

井上 和生 (京都大学大学院)

・第56回 日本栄養・食糧学会中部支部大会

平成20年11月15日(土) 名古屋大学シンポジオンホール

中部支部設立40周年記念講演会「タンパク質・アミノ酸栄養学の過去・現在・未来」

1. アミノ酸栄養研究の源流

吉田 昭 (名古屋大学)

2. タンパク質栄養の研究-40年の回顧と展望-

野口 忠 (中部大学)

3. タンパク質・アミノ酸必要量の過去、現在、未来

岸 恭一 (名古屋学芸大学)

4. 生理機能物質としてのアミノ酸の重要性

横越 英彦 (静岡県立大学)

⑤近畿支部

・第47回 日本栄養・食糧学会近畿支部大会

平成20年10月25日(土) 奈良女子大学

マスターズレクチャー

私の栄養・食糧学研究を振り返って

小川 正 (関西福祉科学大学)

新しい食素材の開発とその新規な機能について

中野 長久 (甲子園大学)

一般講演 64題

⑥中国・四国支部

・日本栄養・食糧学会 中国・四国支部40周年記念市民公開フォーラム「考えよう!食の安全・安心」

平成20年7月13日(日) 県立広島大学広島キャンパス

食品の規格・表示から安全性へ

本間 清一 (東京農業大学)

食品安全性確保とリスク管理ー食品事故を踏まえてー

新山 陽子 (京都大学)

食の安全と農産ブランドの管理

広田 大介 (コープこうべ)

・第41回 日本栄養・食糧学会中国・四国支部大会

平成20年11月15日(土)~16日(日) 香川大学農学部

特別講演

機能性脂質についてーメタボリックシンドロームの観点から

竹内 弘幸 (日清オイリオ株式会社)

希少糖の体系的生産法の確立

何森 健 (香川大学)

一般講演 16題

⑦九州・沖縄支部

・九州・沖縄支部評議員会・市民公開講演会

平成20年6月14日(土) 中村学園大学

市民公開講演「食品成分の新機能性評価と安全性評価」

1. 特定保健用食品許可状況と安全・安心の考え方

永田 純一 (国立健康・栄養研究所)

2. 食品成分の分子レベルにおける機能性評価

佐藤 匡央 (九州大学大学院)

3. 沖縄産柑橘 シークワーシャーの機能性:ノビレチンの代謝

古賀 信幸 (中村学園大学)

4. ヒトを対象とした食品の機能性評価ー難消化性糖質を中心としてー

奥 恒行 (県立長崎シボルト大学)

・第62回 日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部大会

平成20年11月1日(土)~2日(日) 別府大学

特別講演『食と健康』

1. アミノ酸事業創成とグローバル展開ーうま味調味料から医薬品までー

倉橋 修 (味の素株式会社)

2. 脳の健康とアミノ酸栄養

古屋 茂樹 (九州大学)

3. 食事バランスガイドを活用した食育&食環境整備

早瀬 仁美 (福岡女子大学大学院)

一般講演 35題

5) 学会誌その他刊行物の発行

(1) 日本栄養・食糧学会誌 61巻2号～6号、62巻1号の刊行

①2007年度 投稿論文 32編

採択率 52% (取り下げ除く)

掲載可	14編	掲載否	13編
取り下げ	5編	審査中	0編

②2008年度 投稿論文 34編

掲載可	12編	掲載否	8編
取り下げ	4編	審査中	10編

③発行状況

	総説	報文	ノート	資料	動向	速報	講座	書評	計
61-2	0	2	0	0	0	0	0	1	3
61-3	0	3	0	0	0	0	0	0	3
61-4	0	1	0	0	0	0	0	1	2
61-5	1	1	0	0	0	0	0	0	2
61-6	0	2	1	0	0	0	0	0	3
62-1	0	2	1	0	0	0	0	0	3
総計	1	11	2	0	0	0	0	2	16

④刊行状況

	納本日	予定日
61-2	4月9日	4月10日
61-3	6月11日	6月10日
61-4	8月11日	8月10日
61-5	10月17日	10月10日
61-6	12月16日	12月10日
62-1	2月18日	2月10日

⑤日本栄養・食糧学会誌編集委員会の開催 (メール会議を含む) 4回 (メール会議 2回)

本学会誌の J-STAGE Web 上での公開を開始し、順調に公開が進んでいる。

本学会誌の投稿規定を電子投稿が可能なスタイルに変更し、改定案を本年第2号に掲載した。

本年4月から電子媒体での投稿を受け、それを用いて査読作業も進めることとした。この方式は約1年間続けた後、電子査読システム (J-STAGE) につなげる予定。

(2) Journal of Nutritional Science and Vitaminology (JNSV)

日本ビタミン学会との共同編集 Vol. 54-No. 2~No. 6、Vol. 55-No. 1 の刊行

平成20年12月31日現在

Vol	年	分野別投稿数						分野別採択数						備考
		Total	V	N	F	R	Note	Total	V	N	F	R	Note	
54	2008	18	4	12	2	1	0	28	6	20	2	0	4	54-2まで
		47	10	30	7	2	2	43	9	31	3	0	8	54-3まで
		76	12	52	12	2	4	53	11	38	4	1	9	54-4まで
		127	19	84	24	2	17	66	14	46	6	1	9	54-5まで
		154	20	103	31	3	23	81	16	57	8	1	11	54-6まで

Total は、V、N、Fの合計。

(各号の内訳)

Total	V	N	F	R	Note	巻号
17	5	10	2	0	2	54-1
11	1	10	0	0	2	54-2
15	3	11	1	0	4	54-3
10	2	7	1	1	1	54-4
13	3	8	2	0	0	54-5
15	2	11	2	0	2	54-6

V: Vitaminology

N: Nutrition research

F: Food research

R: Review

	60日以内	90日以内	120日以内	全採択数	180日以上
2001年 (採択数)	0	7.5% 5	35.8% 24	67	38.8% 26
2002年 (採択数)	6.6% 5	25.4% 19	44.0% 33	75	30.7% 23
2003年 (採択数)	3.4% 3	14.8% 13	37.5% 33	88	31.8% 28
2004年 (採択数)	4.2% 3	11.3% 8	21.1% 15	71	43.7% 31
2005年 (採択数)	5.8% 4	30.4% 21	17.4% 12	69	34.8% 24
2006年 (採択数)	8.2% 7	32.9% 28	23.5% 20	85	16.5% 14
2007年 (採択数)	15.6% 12	31.2% 24	28.6% 22	77	9.1% 7

上の表のように、ここ数年採択までの時間が短縮傾向にあるが、JNSV 編集委員会では、採択までにかかる時間のさらなる短縮を目指して、論文審査の迅速化、採択不採択の結論を迅速に出すシステム構築している。また、エキスパートエディターによる責任編集制に向けての準備を進めている。

### (3) 学会監修出版物

「時間栄養学：時計遺伝子と食事のリズム」

香川靖雄、柴田重信、小田裕昭、山宿大介、加藤秀夫

西田由香、中村亜紀、堀江修一、榎葉繁紀

女子栄養大学出版部

「テラーメイド個人対応栄養学」

合田敏尚、岡崎光子

建帛社

## 6) 研究業績の表彰および研究の奨励

### (1) 平成 20 年度受賞者

功労賞 (佐伯賞)	青山 頼孝	倉田 忠男	舛重 正一
学会賞	池田 郁男	石田 均	山下かなへ
奨励賞	石原 健吾	仲川 清隆	室田佳恵子

### (2) 平成 20 年度栄養・食糧学基金研究助成授与

栄養・食糧学学術基金研究助成 小林 実夏

## 7) 研究活動の奨励

- (1) コレステロール研究会
- (2) 第 43 回栄養学若手研究者の集い
- (3) スポーツ栄養学研究
- (4) 第 7 回 Hindgut Club Japan サテライトミーティング
- (5) 栄養士のための栄養士による「栄養情報 NET 勉強会」公開勉強会
- (6) 国際栄養を考える会
- (7) 第 2 回カルノシン・アンセリン研究会

## 8) 文部科学省の連絡・回答

- ・平成 21 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞および若手科学者賞候補者の推薦
- ・実地検査 (平成 19 年度) の回答 (平成 20 年 6 月 20 日)
- ・平成 20 年度特例民法法人概況調査の回答
- ・密接民法法人該当調査の回答
- ・その他【作業依頼】、【調査依頼】、【照会】に対する回答の実施、【案内】、【情報提供】、【連絡】に対し関係理事等へ連絡・転送等行った

## 9) 国内学術団体との連絡および協力

### (1) 日本学術会議

- ・日本学術会議発行メールニュース (No. 120~No. 196) の周知
- ・生活科学系コンソーシアムへの参加

(2) 日本医学会

- ・第76回日本医学会定例評議員会（平成21年2月25日）へ出席
- ・医学用語委員会への協力
- ・シンポジウム等周知協力
- ・評議員・連絡委員・用語委員・代委員選出
- ・第28回医学会総会学術プログラム共同企画の承諾

(3) その他の団体との共催、協賛、後援（平成21年3月末日までの承認）

- ・日本油化学会第47回年会実行委員会「日本油化学会第47回年会」の協賛
- ・第二回国際シボジウム「コメと疾病予防」組織委員「第二回国際シボジウム『コメと疾病予防』」の後援
- ・ダノン健康・栄養普及協会「第10回ダノン健康・栄養フォーラム」の後援
- ・JSAAS2008 実行委員会「日本アミノ酸学会第2回学術大会（JSAAS2008）」の協賛
- ・第1回メタロミクス研究会「第1回メタロミクス研究会」の協賛
- ・(財)不二たん白質研究振興財団「大豆のはたらき in 京都一食を通して健やかな人生を」の協賛
- ・日本酪農科学会「牛乳市民講座」の共催
- ・(社)日本油化学会「第8回基準油脂分析試験法セミナー」の協賛
- ・(社)米穀安定供給確保支援機構「平成20年度食育健康サミット」の後援
- ・東京大学大学院医学系研究科ニュートリション寄付講座「オメガ・ナパ・イ・機能性食品科学講演会」の協賛
- ・「第1回アジア太平洋ヘルスプロモーション健康教育学会」の後援
- ・文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業「7私立大学合同シボジウム」の協賛
- ・日本油化学会関東支部「第3回油化学セミナー」の協賛
- ・日本未病システム学会「第15回日本未病システム学会学術総会」の協賛
- ・「第5回国際アントシアニンワークショップ」の共催
- ・食品ハイドロコロイド研究会「第20回ハイドロコロイドシンポジウム」の協賛
- ・食品ハイドロコロイド研究会「食品ハイドロコロイドセミナー2009」の協賛

(4) 研究褒賞等の周知

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| (財)味の素奨学会           | (財)安藤スポーツ・食文化振興財団  |
| (財)飯島記念食品科学振興財団     | (財)上原記念生命科学財団      |
| うまみ研究会              | (財)エリザベス・アーノルド富士財団 |
| (財)旗影会              | (財)木原記念横浜生命科学財団    |
| (株)共同宣伝内全かま連研究助成事務局 | 慶應義塾医学振興基金運営委員会    |
| 公益信託家政学研究助成基金       | 国際アミノ酸科学協会         |
| (財)材料科学技術振興財団       | (財)ソルト・サイエンス研究財団   |
| ダノン健康・栄養普及会         | (財)富山県ひとづくり財団      |
| (財)内藤記念科学振興財団       | (財)日本科学協会          |
| (社)日本看護協会           | (財)日本食品化学研究振興財団    |
| (財)日本中医学協会          | ネスレ栄養科学会議          |
| ノボザイムジャパン株式会社       | バイエル薬品株式会社         |
| (財)ファイザーヘルスリサーチ振興財団 | 福井県小浜市             |
| (財)不二たん白質研究振興財団     | (財)ホクト生物科学振興財団     |
| (財)森永奉仕会            | やずや食と健康研究所         |
| 株式会社山田養蜂場           |                    |

10) 国際学術団体への協力

(1) International Union of Nutritional Sciences (IUNS)

- ・IUNS主催の韓国ソウル大学ワークショップ[Capacity and Leadership Development in Nutritional Sciences](責任者:H. Y. Pike 教授)に田中清氏(京都女子大)、赤尾真氏(日本大学)の2名を派遣(9/4~6)
- ・19<sup>th</sup> International Congress of Nutrition (ICN) はタイ(バンコク)で開かれるが、そのプロモーション担当者と会長、国際交流委員長、庶務理事が横浜パシフィコホテルで打合せ、シンポジウム開催への協力および参加登録料への便宜について合意(9/9)

(2) International Union of Food Science and Technology (IUFoST)

- ・IUFoST - Japan と連携し役員の推薦を行い協力

(3) Federation of Asian Nutrition Societies (FANS)

- ・本会はFANSとの活動窓口になり主体的な取り組みを進行
- ・第11回アジア栄養学会(2011年開催地:シンガポール)に続く、第12回アジア栄養学会(2015年開催)の開催国に関するFANS会議が2009年10月にバンコクで開催。日本の取り組みと関係各国との調整

- (4) Korean Society of Food Science and Nutrition(KFN)、Nutrition Society of Taiwan 等
- KFN の Park 会長と柳田国際交流委員長が福岡で MOU 締結に関する会議をもった (2009 年 2 月)。  
KFN 年次大会 (11 月) での招待講演依頼があり、国際交流委員会で人選を進めている。
  - Nutrition Society of Taiwan の Huang 会長と柳田国際交流委員長が第 12 回アジア栄養学会 (2015 年開催) の開催への取り組みについて台北で意見交換した (11 月)
  - その他の国際学術団体との連絡  
インドおよびスリランカの関係団体から新体制について連絡があった。

## 11) 総会、理事会、評議員会等の開催状況

- 評議員会
 

平成 20 年	5 月 2 日	(金)	9:30~10:20	女子栄養大学坂戸キャンパス
---------	---------	-----	------------	---------------
- 総会
 

平成 20 年	5 月 2 日	(金)	10:30~11:20	女子栄養大学坂戸キャンパス
---------	---------	-----	-------------	---------------
- 理事会
 

平成 20 年	5 月 1 日	(木)	15:00~17:30	女子栄養大学駒込キャンパス
平成 20 年	7 月 26 日	(土)	13:00~16:45	キャンパス・イノベーションセンター
平成 20 年	10 月 25 日	(土)	13:00~15:30	東京大学農学部
平成 21 年	1 月 10 日	(土)	13:00~17:00	キャンパス・イノベーションセンター
平成 21 年	3 月 7 日	(土)	13:00~17:00	キャンパス・イノベーションセンター
- 新理事候補連絡会
 

平成 20 年	4 月 5 日	(土)	13:30~17:00	お茶の水女子大学
---------	---------	-----	-------------	----------
- 役職理事会
 

平成 20 年	5 月 31 日	(土)	13:00~19:00	キャンパス・イノベーションセンター
平成 20 年	7 月 26 日	(土)	10:00~12:00	キャンパス・イノベーションセンター
平成 20 年	10 月 25 日	(土)	10:00~12:00	東京大学農学部
平成 21 年	1 月 10 日	(土)	10:00~12:00	キャンパス・イノベーションセンター
平成 21 年	3 月 7 日	(土)	10:00~12:00	キャンパス・イノベーションセンター
- 名誉会員・顧問懇談会
 

平成 20 年	4 月 19 日	(土)	12:00~14:00	女子栄養大学
---------	----------	-----	-------------	--------

新公益法人制度施行 (平成 20 年 12 月 1 日) にあたり、名誉会員・顧問宛て文書送付 (11 月)
- 名誉会員・終身会員推薦委員会
 

平成 21 年	1 月 10 日	(土)	9:45~10:05	キャンパス・イノベーションセンター
---------	----------	-----	------------	-------------------

## 12) 委員会活動

- 各種授賞等選考委員会 平成 20 年 5 月 2 日 (金)、12 月 13 日 (土)
- 学会活動強化委員会 メール会議
  - 学会活動強化費 (東北、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄の各支部から申請) による学術企画の支援
  - 会員増・若手活動強化費 (東北、近畿、九州・沖縄の各支部から申請) による企画支援。栄養・食糧学基金研究助成の予備審査
  - 支給基準の立案 (メール会議)
- 倫理委員会 倫理審査申請 2 件 (書面審査) メール会議
- 広報委員会
  - 第 62 回日本栄養・食糧学会大会記者会見 平成 20 年 4 月 24 日 (木) 東京
  - ホームページ (URL <http://eishoku.umin.ne.jp/>) の充実
  - アミノ酸データベースの更新
  - Eishoku News! 平均月 1 回
- 国際交流委員会 平成 21 年 2 月 21 日 (土)
- 各種検討会
  - 用語辞典委員会 平成 20 年 8 月 7 日 (木)、メール会議 2 回
  - 栄養成分表示・栄養教育検討委員会 メール会議 2 回